

■吉田健一 英文学者、批評家、小説家。吉田茂の長男。少年期の海外生活を背景に、独特な文学論、文明論多数。

よしだけんいち

明治天皇没・1912=

後の首相吉田茂がローマの日本大使館の三等書記官として赴任中、その長男に生まれる。直後に父が転任となり、母に従って、その実家牧野家で育てられた。

本格政党内閣1918= 6歳：学習院初等科に入学するが、一学期で退学、家族とともに、父の新任地の済南に住み、家庭教師に学ぶ。

以後、父の任地に従ってフランス、イギリスなど外国で生活し、この経験が文筆活動の背景となる。

大暴落・・・1920= 8歳：ロンドンの小学校、

原敬首相暗殺1921= 9歳：

水平社結成・1922=10歳：天津の英国人小学校、

関東大震災・1923=11歳：天津のグラマースクールに入学(関東大震災の時は一時帰国中で、箱根で遭遇)などした後、

円本時代始・1926=14歳：帰国して、暁星中学2年に編入、

海軍軍縮条約1930=18歳：卒業後、渡英して受験勉強をした後、ケンブリッジ大学キングス・カレッジに入学。

満州事変・・・1931=19歳：文士を志し、中退して帰国。河上徹太郎に師事するとともに、アテネ・フランセに入学。

芥川直木賞始1935=23歳：アテネ・フランセを卒業。ポオの「覚書」訳刊。

{文学界}に寄稿し始め、

日中戦争始・1937=25歳：

健保+総動員 1938=26歳：ヴァレリイの翻訳を発表し始める。

第二次大戦始1939=27歳：山本健吉らと、同人雑誌{批評}を創刊し、

大政翼賛会・1940=28歳：*小説を発表。健一が談話を筆録した祖父の牧野伸顕「松濤閑談」刊。ヴァレリイ「ドガに就て」訳刊。

日米開戦・・・1941=29歳：野上豊一郎・弥生子夫妻の媒酌で結婚。母が死去。

敗戦・・・1945=33歳：空襲で自宅を焼失。福島の実家に疎開後、召集で横須賀海兵団に入るが、敗戦で復員。長女誕生。

新憲法施行・1947=35歳：[新夕刊]に渉外部長として入社。鎌倉アカデミアで講義。ラフォルク「ハムレット異聞」訳刊。

極東裁判決・1948=36歳：S. ジョンソン「シェイクスピア論」ほか、2点訳刊。健一が談話を筆録した牧野伸顕「回顧録」刊行開始。

三大事件・・・1949=37歳：*牧野伸顕が死去。代表作の一つ「英国の文学」刊。

朝鮮戦争始・1950=38歳：_ロレンス「息子と恋人」訳刊。中村光夫・大岡昇平・福田恒存・三島由紀夫らと定期的集まり(鉢の木会)。

独立回復・・・1951=39歳：_チャタレイ裁判弁護側証人として東京地裁に出庭。以後、毎年1,2冊の訳刊を続けながら、

メーデー事件・1952=40歳：「シェイクスピア」、

テレビ放送始・1953=41歳：イギリス外務省の招待で河上徹太郎らとともに、22年ぶりに訪英。

自衛隊発足・1954=42歳：灘の菊正宗本社を見学して利き酒、以後毎年行く。「宰相御曹司貧窮す」とその私家版「でたらめろん」、

55年体制始・1955=43歳：「東西文学論」「随筆酒に呑まれた頭」、

国連加盟・・・1956=44歳：「三文紳士」「乞食王子」、_「シェイクスピア」で、

なべ底不況・1957=45歳：「甘酸っぱい味」「近代文学論」「酒宴」、_読売文学賞。「日本について」が新潮社文学賞。

インスタント・1958=46歳：「鉢の木会」メンバーを母体に同人誌(聲)を創刊し、連載。「舌鼓とところどころ」「英国の文学の横道」、

美智子妃・1959=47歳：「英国の近代文学」、

安保闘争・・・1960=48歳：この年から毎年金沢通い。4点刊行。_代表作の一つ「文学概論」。「吉田健一著作集」刊行開始。

タイタイ病始・1961=49歳：(聲)が終刊。父吉田茂の「回想十年」を英訳、ほか2点刊行。_読売新聞に「大衆文学時評」連載開始、

全国総合計画1962=50歳：「横道にそれた文学論」、

TV宇宙中継始1963=51歳：中央大学文学部教授となる。「残光」。「吉田健一随筆集」。

東京リンピック 1964=52歳：「吉田健一訳詩集」。「謎の怪物・謎の動物」。

大学紛争始・1965=53歳：_読売新聞の連載が終り、「大衆文学時評」刊。

いざなぎ景気1966=54歳：「近代詩について」。クレランド「ファニー・ヒル」訳刊。

美濃部都知事1967=55歳：「文学の楽しみ」。父が死去、「落日抄-父・吉田茂のこと他」を出版。_読売新聞に「文芸時評」連載。

震ヶ関ビル・1968=56歳：「吉田健一全集」刊行開始。C・ブロンテ「ジェイン・エア」訳刊。

全共闘・・・1969=57歳：「余生の文学」。「二十世紀英米文学案内イヴリン・ウォー」を編集。

大阪万博・・・1970=58歳：「作者の肖像」。中央大学を辞す。*思想形成は野間文芸賞の「ヨーロッパの世紀末」で頂点に達した。

ドルショック・・・1971=59歳：「絵空ごと」。「吉田健一全短編集」。「瓦礫の中」で読売文学賞。朝日新聞に「文芸時評」連載。

日中国交回復1972=60歳：「文学が文学でなくなる時」。「私の食物誌」。_充実した生をもたらす時間意識の問題に沈潜し、

石油ショック1973=61歳：3点刊行。「本当のやうな話」や「金沢」はその問題に小説形式で迫ったもの。

以後も毎年2,3点の刊行を続け、食通、酒仙としても知られたが、

クランブル事件1975=63歳：

JALハイジャック・1977=65歳：_イギリス・フランスへ旅行して、帰国後、肺炎のため自宅で没した。